

## 今、なぜ「国葬」なのか？

政府は、安倍元首相の「国葬」を9月27日に実施することを、内閣府設置法を根拠として閣議決定をしました。岸田首相が葬儀委員長を務め、全額国費で行われる安倍元首相の「国葬」を巡っては、国民の間でも賛否が割れています。

## そもそも「国葬」って何？

国葬は1883年に死去した岩倉具視にさかのぼり、戦前には国をまとめ、国民を統一する狙いで、国や天皇に対する功績があった人が選ばれ、天皇から賜るものとして行われましたが、1947年に国葬令は失効しました。

戦後に国葬を行ったのは吉田茂元首相だけで、根拠法も無く内閣の所掌事務の中にある「国家の儀式を行う」を拡大解釈して行い、それを印象付けるために「国葬儀」などと言っています。

岸田首相は「国葬」を行う理由を「我が国は暴力に屈せず、民主主義を断固として守り抜く決意を示していく」として、日本の活力を世界に発信するためだと言われています。

安倍元総理への犯行動機が、宗教への恨みならテロでも民主主義への挑戦でもなく国葬の理由はありません。自民党と宗教団体との合同葬にすればいいのです。

また、政治家として功績も言われていますが、政治家の評価など一律にできるのでしょうか？

安倍元首相の評価は国が決める。反対意見は聞かない。国民は安倍元首相の業績を押しつられ、黙って弔意を示せ！これが民主主義でしょうか？

政府は、「国民に喪に服すように求めない方針」だと言っているが、55年前の「国葬」では、黙とう時間に全国各地でサイレン。新幹線のホームでも黙祷するよう放送したそうです。公務員は謹慎したそうです。

## 国民の税金を使ってまで 行うことでしょうか？